

(様式2)

校種	小・中 どちらかに○	学校番号	4	学校名	宇都宮市立築瀬小学校
----	---------------	------	---	-----	------------

令和6年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・ 国語では、多くの領域で市の平均を下回っている。特に「情報の扱い方に関する事項」では情報と情報との関係について、文章構成を考えながら文章を要約することが苦手な傾向がある。引き続き、文章を要約する活動を適宜行い、情報を正確に読み取り、関連付けていく力を付けていく必要がある。また、「書くこと」については、記述問題や長文を読んで答える問題に苦手意識が高い傾向にあるため、条件に合わせて自分の考えや、その考えの理由を書くことができるように、段落や字数などに合わせて書く学習を意図的に行っていきたい。
- ・ 算数においては、ほとんどの学年が学年差はあるものの技能を身に付け、既習学習を活用しながら問題を解決できる児童が多くいる。計算技能も市の平均よりも高い傾向が見られるが、資料から読み取った情報を具体的に説明する問題など、活用問題に課題がある児童も見られる。知識・技能、思考・判断・表現の平均はどちらも市より高い傾向にあるが、今後も「数学的な見方・考え方」を働かせるような発問や学習活動を工夫し、児童の理解の質を高めるとともに、問題を協働的に解決する活動や、数学的な表現を用いて伝え合う活動の充実させていきたい。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・ 「授業がわかる」についての肯定割合は、ほとんどの学年が90%を超えている。一方「勉強が好き」についての肯定割合は学年が上がるにしたがい、80%に達していない。中には市の平均より12ポイント以上低い学年もある。
- ・ 「社会の授業が好きか」という設問に、半数の学年が市の肯定割合平均より下回っている。中には10ポイントも下回っている学年もある。本校は社会科の研究を今年度から取り組み始め、児童が主体的に学習に取り組むための手立てを様々な場面で講じているが、改めて研究内容を全職員で徹底して実践していく必要がある。
- ・ 「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」という設問では、全学年で市の平均より低い結果である。学習内容は理解できるが、主体的に学ぶ楽しさや友達と学び合う楽しさを感じられていない児童が多いと考えられる。
- ・ 「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」の設問は、全学年で市の平均より低くなっており、自分の考えを一人一人が持ち、なぜそのように考えたのかを表現できるよう、理由や根拠を明らかにして文章を書くような実践を多く取り入れていく必要がある。
- ・ 「本を利用して学習に関する情報を得ている」の設問について、全学年が市の肯定割合平均より下回っている。情報源をインターネットで検索することに偏っていることが考えられる。学習に必要な情報について本を活用する場面を意図的に設定していく。
- ・ 平日の家庭学習時間は、過半数以上の学年が宇都宮市の平均より高くなっている。しかし、学習時間が少ない児童もあり、家庭学習に対する意識に個人差が見られる。今後も学習習慣が身に付くよう、指導を継続していく。

(3) 授業等への取組状況から

全校で授業の流れを統一し、児童が安心して学習に取り組める環境作りに努めてきたことにより、授業中、学習課題に一生懸命取り組む姿が見られる。自力での課題解決の場を意図的に設けたことにより、自分で考えを導き出すことができるようになった児童が増えているが、個人差が大きい。また意見を伝え合う場を設けたことで、自分の言葉で伝えることができるようになってきているが、ペアやトリオ、グループ学習等についてのルールなどが統一されていないこともあり、主体的な学び合いを深めることが十分にはできなかった。今後は、協働的学び合いの工夫や、児童の思考を促す発問、資料提示の方法、児童の意見をつなぐ教師のコーディネート等についてもさらに研究を進めていき、児童が共に学び合う力を育ていきたい。

2 今年度の重点目標

自ら問いを見い出し、他者と関わり合いながら、協働的に学び合う児童の育成

3 今年度の取組(「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★、「令和6年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○)

(1) 授業実践の工夫(年間を通して)

- ★□○児童自身が、実社会や実生活に関わる教材から追究意欲を高められるような学習課題の設定を行う。
- ★□○児童同士が学び合える活動等を工夫し、多様な考えに触れ、相互に関連付けたり、共通点や相違点を見い出したりしながら、多面的・多角的な視点から課題解決ができるようにする。
- ★□○終末の振り返りでは、単元、学年、他教科等の学びや生活の改善などにつなげていくことができるようコーディネートし、自分の学びを文章で書かせて自覚させていく。
- ★□○資料を活用し、読み取る力を育成し、情報を活用して自分の考えをまとめられるよう意図的な条件を示していく。
- ★□○ICT機器や図書等を効果的に活用し、児童の理解や思考が深められる授業を行う。

(2) 計画的・継続的な研修の工夫

- 研究主題「社会への関心を高め、他者とともに追究し、主体的な学びができる児童の育成」
～社会的な見方・考え方を働かせて、問いを追究する社会科学習～
を目指した要請訪問及び一人一授業の実施(通年)
- 社会科による環境整備(通年)
- 社会科の研修の実施(年3回)

(3) 家庭・地域との連携・協力

- ★家庭と連携・協力することで宿題や自主学習等の家庭学習を習慣化できるようにし、基礎・基本を確実に習得ができるようにする。
- ★地域コーディネーターと連携・協力することで、ボランティアを活用した教育活動を充実させる。